

## 1. L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X で抄録を作成する上での注意事項

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X ので抄録を作成するうえでの注意事項について、主要なポイントについて記す。

### 1.1. 一番大きな文章単位：節

論文と抄録では、文章を作成する際のスタイルファイルが異なる。宮治研の L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X スタイルパッケージにおいて、論文では `jsbook.cls` を、抄録においては `jsarticle.cls` を用いている。

ここで、`jsarticle.cls` を利用する際には、「章 (`\chapter{}`)」を利用することができない。したがって、一番大きな枠組みとして「節 (`\section{}`)」を利用することになる。

### 1.2. 図表の位置の指定

論文を書く際には、図や表の位置は本文中の記載よりも後であれば、とくに気にする必要はなかった。そのため、`\begin{figure}[htbp]` の様に記述し、`h`(この場所) `t` (ページ上部) `b`(ページ下部) `p`(1 ページ) の順の優先順位で図の位置を指定していた。

しかし、抄録の場合、図や表の位置は論文の上部や下部にまとめる。その為、`\begin{figure}[b]` もしくは `\begin{figure}[t]` のように指示をする必要がある。

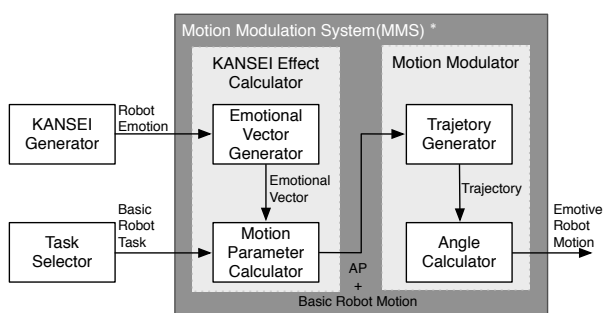
なお、図の文字サイズは、本サンプルファイル程度の小ささが限界と考えること。

### 1.3. 参考文献について

抄録においては、参考文献のフォーマットも省略することが多いのだが、今回は論文時と同様の表記にて提出することとした。

参考文献を記載するファイルは新たに作成せず、論文と同じ `myrefs.bib` ファイルをスタイルパッケージのフォルダにコピーし、しかるべき引用命令を入れれば良い。サンプルとして、論文 [?]、書籍 (の一部) [?]、書籍 [?]、予稿集 [?]、その他 (Web サイトなど) [?] を組み込んだ。

```
\begin{figure}[b]
\centering
\includegraphics[width=8cm]{MMS.pdf}
\vspace{-7mm}
\caption{MMS の内部構成}
\label{fig:mms}
\vspace{2mm}
\end{figure}
```



\* MMS is one form of expression KANSEI Expressive Regulator.

図 1: MMS の内部構成